

非同期コール

概要・基本設定	2
基本設定	2
物理インターフェース（非同期ポート）の設定	2
モデムの設定	2
モデムスクリプトの作成	3
ACC コールの作成	5
上位層とのインターフェース	7
PPP 接続の設定例	8
ルーター間接続	8
ダイヤルアップサーバー	10
デバッグ	12
コマンドリファレンス編	13
機能別コマンド索引	13
ACTIVATE ACC CALL	14
ADD ACC CALL	15
ADD ACC SCRIPT	17
DEACTIVATE ACC CALL	19
DELETE ACC CALL	20
DELETE ACC SCRIPT	21
DISABLE ACC CALL	22
DISABLE ACC CALL DEBUG	23
ENABLE ACC CALL	24
ENABLE ACC CALL DEBUG	25
PURGE ACC	27
PURGE ACC SCRIPT	28
SET ACC CALL	29
SET ACC SCRIPT	31
SHOW ACC	32
SHOW ACC CALL	33
SHOW ACC SCRIPT	36

概要・基本設定

ここでは、シリアルポートを使って非同期通信を行う非同期コールコントロール（ACC）機能について説明します。

本製品は、最高 115200bps での通信が可能な非同期シリアルインターフェース（Asyn）を 2 ポート装備しています。これらの非同期ポートは通常コンソールポートとして使用しますが、モデム等を接続することにより外部への発信、外部からの着信が可能な WAN ポートとして使用することもできます。

ACC モジュールは、非同期ポート経由でモデム等を制御し、発着信や接続相手の認証、上位モジュールである PPP（Point-to-Point Protocol）とのインターフェースを提供するモジュールです。

基本設定

非同期ポートを使って通信を行う場合の基本的な設定手順は次のようになります。

1. 物理インターフェース（非同期ポート）の通信設定
2. モデムの設定（手動設定またはモデムスクリプトによる自動設定）
3. モデムスクリプトの作成（モデム初期化、発信、ログイン等のシーケンスをスクリプトに記述）
4. ACC コールの作成（接続先、使用する非同期ポート、エンキャプセレーションなどを設定）
5. 上位プロトコルの設定（必要に応じて）

以下、各手順について解説します。

物理インターフェース（非同期ポート）の設定

モデムを接続する非同期ポートの設定は次のようにしてください。設定は、SET ASYN コマンド（「インターフェース」の 50 ページ）で行います。

- DCD 信号：モデムからの DCD（CD）信号がオンになったときに接続されたと認識し、オフになったときに切断されたと認識するように設定してください。具体的には CDCONTROL=CONNECT を指定します。
- ポート速度：非同期ポートの速度はモデムの DTE 速度にあわせて設定してください。ポート速度は SPEED パラメーターで指定します。最高速度は 115200bps です。

■ 非同期ポート「1」をモデム接続用の設定にします。ここでは、ポート速度を最高値の 115200 に設定しています。

```
SET ASYN=1 SPEED=115200 CDCONTROL=CONNECT ↵
```

モデムの設定

非同期ポートに接続するモデムの設定は次のようにしてください。モデムの設定は機種によって異なる可能性がありますので、モデムのマニュアルでご確認ください。

- DCD 信号：モデムの DCD（CD）信号線は相手モデムのキャリア検出時にオン、そうでないときはオフになるよう設定してください。本製品はモデムからの DCD 信号のオン・オフによって相手側

との接続、切断を検知します (AT&Cn コマンド)。

- DTR 信号：ルーターからの DTR (ER) 信号がオフになったときにモデムが回線を切断し、コマンドモードになるよう設定してください (AT&Dn コマンド)。
- 自動着信：外部からの着信接続を受け入れる場合は、自動着信までの呼び出し回数を 0 以外の値に設定してください (ATS0=n コマンド)。

モデムの設定は、CONNECT PORT コマンド (「インターフェース」の 23 ページ) でモデムに接続し、コマンドモードで直接 AT コマンドを入力して行うこともできますが、通常は次に述べるモデムスクリプトを使って自動的に行います。

モデムスクリプトの作成

非同期ポートに接続したモデムの制御は、モデムスクリプトの内容にしたがって行われます。モデムスクリプトは、ルーター・モデム間のやりとりを記述したテキストファイル (チャットスクリプト) です (拡張子は.mds)。

モデムスクリプトは、ADD ACC SCRIPT コマンド (17 ページ) や EDIT コマンド (「運用・管理」の 197 ページ) で作成できるほか、別のコンピュータ上で作成したものを LOAD コマンド (「運用・管理」の 223 ページ) でダウンロードして使うこともできます。

モデムスクリプトの内容は、以下の 2 つの要素からなります。

■ 送信ステートメント：モデムに送るコマンドをスクエアブラケット ([]) で囲んだものです。改行などの制御文字はキャレット (^) を使って「^m」(Ctrl-M の意味) のように表します。たとえば、モデムを初期化するには次のように書きます。最後の「^m」を忘れるとモデムにコマンドが入力されないので注意してください。

```
[atz^m]
```

☞ 送信ステートメントの文字列はそのまま送られます。コネクトスクリプトなどでログインパスワードを送信するときは、大文字小文字の区別に注意してください。

■ 受信ステートメント：期待する応答文字列と待ち時間をかっこ (()) で囲んだものです。(待ち時間 文字列) の形式で指定します。ここで「待ち時間」は応答を待つ時間 (秒)、「文字列」はモデムからの応答を示します。指定時間内に期待した応答を得られなかった場合はスクリプトの実行を中止し、DTR 信号をオフにしてモデムに回線切断をうながします。たとえば、「ok」という文字列を 5 秒間待つには、次のように書きます。

```
(5 ok)
```

待ち時間だけで文字列を指定しなかった場合は、単に指定時間だけ待機した後、次のステートメントに進みます。

```
(5)
```

また、待ち時間を指定せずに文字列だけを指定した場合は、指定文字列を受信するまで無期限に待ちつづけます。

```
(ok)
```

☞ 受信ステートメントの文字列は大文字小文字を区別しません。

モデムスクリプトは、実行される時期によって 3 種類に分類できます。

- **ダイヤルスクリプト (DSCRIPT)**：モデムを発呼させるためのスクリプト。モデムの初期化と設定を行い、接続先にダイヤルするためのモデムコマンドと応答待ち条件を記述する。
- **コネクトスクリプト (CSCRIPT)**：相手との接続が確立した直後に実行されるスクリプト。モデムを介して相手ホストまたはルーターに送る文字列と応答待ち条件を列挙したもの。リモートホストにログインするための手順（ログインスクリプト）などを記述する。
- **リセットスクリプト (RSCRIPT)**：呼の切断時（DCD 信号線がオフになったとき）に実行されるスクリプト。ACC コールが定義された直後にも実行されるため、ルーターの起動スクリプトに ACC コールの定義が書かれている場合は、起動直後にも実行される。モデムのリセットや再初期化コマンドを記述する。

以下、モデムスクリプトの具体例を示します。

ダイヤルスクリプトの例

```
[atz^m]
(5 ok)
[ate0q1dt%1^m]
```

リセットスクリプトの例

```
[atz^m]
(5 ok)
[ats0=2^m]
```

コネクトスクリプトの例

```
(10 login:)
[ispuser^m]
(10 password:)
[isppasswd^m]
(10)
```

■ モデムスクリプトを作成するときは、最初に手動接続してモデムやログイン先の応答を確認するとよいでしょう。CONNECT PORT コマンド（「インターフェース」の 23 ページ）でモデムが接続されているポートを指定すると、端末から直接モデムにコマンドを入力できるようになります。たとえば、非同期ポート「1」にモデムが接続されている場合、コマンドプロンプトから次のように入力します。

CONNECT PORT=1 ↵

```
Manager > connect port=1

Info (136266): Local port ( Asyn 0 ) assigned to service ( Asyn 1 ).
atz
OK
```

ルーターのコンソールに戻るには **Break** を送ります。コンソールからログインしている場合は、「Break」キーを入力するか、端末ソフトの機能を使って **Break** を送信してください。また、Telnet でログインしてい

る場合は、「Ctrl-P」を入力してください。Break を送信すると、モデムとのセッションがサスペンド状態となり、次のように表示されます。

```
Session 1 to Asyn 1 paused
```

```
Manager >
```

この状態では、モデムとの接続がまだ保持されているため、完全に接続を切るには、次のように入力します。指定する番号（セッション番号）は、SHOW SESSIONS コマンド（「運用・管理」の 347 ページ）で確認できます。

```
DISCONNECT 1 ↵
```

```
Manager > disconnect 1
```

```
Info (136275): Disconnected from session 1 ( Asyn 1 ).
```

```
Manager >
```

ACC コールの作成

非同期ポートを使って通信を行うには、接続先情報を ACC コールとして定義する必要があります。ACC コールは ISDN 接続における ISDN コールと同様のもので、ADD ACC CALL コマンド（15 ページ）で作成します。

■ リモートサイト 06-1234-2222 にダイヤルする ACC コール「remote」を作成します。DIRECTION には有効な呼の方向を「ORIGINATE」（発呼のみ）、「ANSWER」（着呼のみ）、「BOTH」（発呼、着呼の両方）から指定します。ENCAPSULATION には使用する非同期回線上で使用するプロトコルを指定します。PPP の場合は PPP となります。AUTHENTICATION は着信時の認証方式を指定するもので、PASSWORD（パスワード認証）か NONE（なし）を指定します。ここでは PPP レベルで認証を行うものと仮定し、NONE を指定します。ASYN には、モデムを接続している非同期ポート番号を指定します。DSCRIPT、RSCRIPT はそれぞれダイヤルスクリプト、リセットスクリプトの指定です。コネクツスクリプトは CSCRIPT で指定します。

```
ADD ACC CALL=remote DIR=BOTH ENCAP=PPP AUTH=NONE ASYN=1 DSCRIPT=dial.mds
RSCRIPT=reset.mds ↵
```

ダイヤルスクリプト「dial.mds」

```
[atz^m]
(5 ok)
[ate0q1dt0612342222^m]
```

リセットスクリプト「reset.mds」

```
[atz^m]
(5 ok)
```

```
[ats0=2^m]
```

■ DIAL パラメーターを使用すると、ダイヤルスクリプト実行時に引数%1として値を渡すことができます。このパラメーターに接続先電話番号を指定することで、ダイヤルスクリプトを汎用的に書けるようになります。

```
ADD ACC CALL=remote DIR=BOTH ENCAP=PPP AUTH=NONE ASYN=1 DSCRIPT=dial.mds
RSCRIPT=reset.mds DIAL=0612342222 ↵
```

ダイヤルスクリプト「dial.mds」

```
[atz^m]
(5 ok)
[ate0q1dt%1^m]
```

スクリプト実行時には、%1がDIALパラメーターで指定した値に置き換えられます。この例では「0612342222」に置き換えられるため、「ate0q1dt0612342222」というモデムコマンドが実行されることになります。

■ 着呼時に PPP インターフェースを動的作成する場合は、PPPTEMPLATE パラメーターで PPP テンプレート番号を指定します。着信専用のときは DIRECTION に ANSWER を指定します。また、ダイヤルスクリプトは不要なので指定しません。

```
ADD ACC CALL=dialin DIR=ANSWER ENCAP=PPP AUTH=NONE ASYN=1
RSCRIPT=reset.mds PPPTEMP=0 ↵
```

■ ACC コールを手動で起動（発信）するには、ACTIVATE ACC CALL コマンド（14 ページ）を使います。起動できるのは、発信可能な ACC コール（DIRECTION パラメーターに ORIGINATE か BOTH を指定したもの）だけです。

```
ACTIVATE ACC CALL=remote ↵
```

■ ACC コール上にダイヤルオンデマンドの PPP インターフェースが作成されている場合は、必要に応じて ACC コールが自動的に発呼し、無通信状態が一定時間続くと自動的に切断されます。PPP インターフェースのダイヤルオンデマンドは、CREATE PPP コマンド（「PPP」の 38 ページ）/SET PPP コマンド（「PPP」の 60 ページ）の IDLE パラメーターで設定します。

また、ダイヤルオンデマンドがオフの PPP インターフェースが作成されている場合は、ルーター起動時に自動的に発呼します。

■ ADD ACC CALL コマンド（15 ページ）の AUTHENTICATION パラメーターは、着呼時のログイン認証について設定するパラメーターです。

- PASSWORD を指定した場合、着呼直後にログインプロンプトを使ったログイン認証を行ってから次の手順に進みます。
- AUTO を指定した場合、PPP のフラグシーケンスの有無を判断し、検出できなかったときのみログイン認証を行います。
- NONE を指定した場合、ログイン認証を行いません。

🔗 AUTHENTICATION パラメーターは、リモートシステムとの物理接続が完了した直後に行われるログイン

認証の有無を指定するものです。おもに端末ログインや SLIP 接続時の認証に使います。PPP レベルでの認証 (PAP や CHAP) には関係しませんのでご注意ください。PPP レベルで CHAP 等の認証を行うときは、通常 AUTHENTICATION パラメーターに NONE を指定します。

🔗 SLIP はサポート対象外です。

■ ADD ACC CALL コマンド (15 ページ) の ENCAPSULATION パラメーターは、非同期回線上で使用する伝送手順 (データリンク層プロトコル) を指定するものです。PPP を使う場合は PPP を、SLIP を使う場合は SLIP か CSLIP を指定してください。

■ ACC コールの設定内容を変更するには SET ACC CALL コマンド (29 ページ) を使います。たとえば、ACC コール「remote」のダイヤル先を変更するには、次のようにします。

```
SET ACC CALL=remote DIAL=0612345678 ↵
```

■ ACC コールの設定情報を確認するには、SHOW ACC CALL コマンド (33 ページ) を使います。

```
SHOW ACC CALL ↵
SHOW ACC CALL=remote ↵
```

■ ACC コールを削除するには、DELETE ACC CALL コマンド (20 ページ) を使います。

```
DELETE ACC CALL=remote ↵
```

上位層とのインターフェース

ACC コール上で使用できるデータリンク層プロトコルには、PPP (Point-to-Point Protocol) と SLIP (Serial Line Internet Protocol) の 2 種類があります。これらのインターフェースは次のようにして設定します。

■ ACC コール上に PPP インターフェースを作成するときは、OVER パラメーターに ACC コール名を「ACC-callname」の形式で指定します。「ACC-」は固定文字列、「callname」はコール名です。ダイヤルオンデマンドを有効にするため「IDLE=ON」を付けるようにしてください。

```
CREATE PPP=0 OVER=ACC-remote IDLE=ON ↵
```

■ SLIP インターフェースの場合、特に作成の操作は必要ありません。ACC コールの ENCAPSULATION パラメーターに SLIP か CSLIP を指定した場合、「SLIPn」という名前の SLIP インターフェースが自動的に (暗黙のうちに) 作成されます。「n」は、ACC コール作成時に ASYN パラメーターで指定した非同期インターフェースの番号です。たとえば、asyn1 上に SLIP 用の ACC コールを作成した場合、インターフェース名は slip1 となります。

このインターフェースは、SHOW INTERFACE コマンド (「インターフェース」の 85 ページ) 等では見ることができませんが、ADD IP INTERFACE コマンド (「IP」の 172 ページ) で IP アドレスを割り当てることができます。

```
ADD IP INT=slip1 IP=192.168.10.200 MASK=255.255.255.255 ↵
```

📎 SLIP はサポート対象外です。

PPP 接続の設定例

PPP は、シリアル回線経由で複数プロトコルの通信を可能にするプロトコルです。モジュール型の設計により認証などの機能も提供されています。現在、もっとも一般的に使用されている WAN プロトコルです。

1. 物理インターフェースとして非同期（Asyn）ポートを使用する。非同期ポートにはシリアルケーブルでモデムや TA を接続します。
2. モデム、TA 経由での呼を管理するため、非同期（ACC）コールを作成して、接続先の電話番号、使用する非同期ポート、モデムスクリプトなどを指定する。ACC コールは、BRI、PRI ポート上で使用する ISDN コールとよく似た働きをします。ただし、ISDN の場合は回線制御機構がルーターに内蔵されているのに対し、ACC コールでは発着信の制御を外部のモデムに依存している点が異なります。
3. ACC コール上に PPP インターフェースを作成する。具体的には、CREATE PPP コマンド（「PPP」の 38 ページ）の OVER パラメーターに ACC コール名を「ACC-」+コール名の形式で指定します。これは、モデム等により交換回線網上に張られた「呼」を物理的な伝送路と見なしていることを示します。

ルーター間接続

2つの LAN をアナログ回線経由で接続します。IP アドレスは、それぞれのルーターで固定的に設定します。
ルーター A

1. 非同期ポートの設定を行います。

```
SET ASYN=1 SPEED=115200 CDCONTROL=CONNECT ↵
```

2. ACC コールを作成し、接続先を登録します。相手ルーターの認証は PPP のリンク確立後に行うため、AUTHENTICATION パラメーターには NONE を指定します。

```
ADD ACC CALL=remote DIAL=0312342222 DIR=BOTH ENCAP=PPP ASYN=1
DSCRIPT=dial.mds RSCRIPT=reset.mds AUTH=NONE ↵
```

3. 相手ルーターの PPP ユーザー名を登録します。

```
ADD USER=RouterB PASSWORD=PasswordB LOGIN=NO ↵
```

4. PPP インターフェースを作成します。物理インターフェースには、ACC コール名の前に「ACC-」を付けたものを指定します。

```
CREATE PPP=0 OVER=ACC-remote IDLE=ON BAP=OFF LQR=OFF AUTHEN=CHAP
USER=RouterA PASSWORD=PasswordA ↵
```

5. IP の設定をします。


```
ENABLE IP ↵
ADD IP INT=eth0 IP=192.168.10.1 ↵
ADD IP INT=ppp0 IP=192.168.100.1 ↵
ADD IP ROUTE=192.168.20.0 MASK=255.255.255.0 INT=ppp0
NEXT=192.168.100.2 ↵
```

ルーター B

1. 非同期ポートの設定を行います。

```
SET ASYN=1 SPEED=115200 CD=CONNECT ↵
```

2. ACC コールを作成し、接続先を登録します。相手ルーターの認証は PPP のリンク確立後に行うため、AUTHENTICATION パラメーターには NONE を指定します。

```
ADD ACC CALL=remote DIAL=0312341111 DIR=BOTH ENCAP=PPP ASYN=1
DSCRIPT=dial.mds RSCRIPT=reset.mds AUTH=NONE ↵
```

3. 相手ルーターの PPP ユーザー名を登録します。

```
ADD USER=RouterA PASSWORD=PasswordA LOGIN=NO ↵
```

4. PPP インターフェースを作成します。物理インターフェースには、ACC コール名の前に「ACC-」を付けたものを指定します。

```
CREATE PPP=0 OVER=ACC-remote IDLE=ON BAP=OFF LQR=OFF AUTHEN=CHAP
USER=RouterB PASSWORD=PasswordB ↵
```

5. IP の設定をします。

```
ENABLE IP ↵
ADD IP INT=eth0 IP=192.168.20.1 ↵
ADD IP INT=ppp0 IP=192.168.100.2 ↵
ADD IP ROUTE=192.168.10.0 MASK=255.255.255.0 INT=ppp0
NEXT=192.168.100.1 ↵
```

■ モデムスクリプト dial.mds の内容は次のとおりです。

```
[atz^m]
(10 ok)
[ate0q1dt%1^m]
```

■ モデムスクリプト reset.mds の内容は次のとおりです。

```
[atz^m]
(10 ok)
```

```
[ats0=1^m]
```

■ PPP インターフェースには、必ずしも IP アドレスを設定する必要はありません。IP アドレスを設定しないインターフェースを **Unnumbered IP インターフェース** と呼びます。Unnumbered を使用する場合は、手順 5 の IP の設定で次の 2 行を変更します。

ルーター A

```
ADD IP INT=ppp0 IP=0.0.0.0 ↵
ADD IP ROUTE=192.168.20.0 MASK=255.255.255.0 INT=ppp0 NEXT=0.0.0.0 ↵
```

ルーター B

```
ADD IP INT=ppp0 IP=0.0.0.0 ↵
ADD IP ROUTE=192.168.10.0 MASK=255.255.255.0 INT=ppp0 NEXT=0.0.0.0 ↵
```

ダイヤルアップサーバー

アナログ回線経由でダイヤルアップを受け入れられるように設定します。接続してきたユーザーには、ユーザー認証データベースに登録された IP アドレスを割り当てます。

ルーター（ダイヤルアップサーバー）

1. 非同期ポートの設定を行います。

```
SET ASYN=1 SPEED=115200 CDCONTROL=CONNECT ↵
```

2. PPP ユーザーを登録します。IPADDRESS、NETMASK パラメーターは、このユーザーが接続してきたときに割り当てる IP アドレスとネットマスクです。ダイヤルアップユーザーに割り当てるネットマスクは、通常 255.255.255.255 になります。

```
ADD USER=dialupuser PASSWORD=dialuppasswd IPADDRESS=192.168.10.230
NETMASK=255.255.255.255 LOGIN=NO ↵
```

3. ユーザーが接続してきたときに動的に作成される PPP インターフェースのテンプレートを作成します。ルーターのユーザー認証データベースを使って認証を行い、認証方式には CHAP か PAP のどちらかを使います。

```
CREATE PPP TEMPLATE=0 IDLE=180 BAP=OFF LQR=OFF LOGIN=USER
AUTHEN=EITHER ↵
```

4. ACC コールを作成します。着信専用なので DIRECTION には ANSWER を指定します。PPPTemplate には、着信時に動的作成する PPP インターフェースのテンプレートを指定します。また、接続ユーザーの認証は PPP のリンク確立後に行うため、AUTHENTICATION パラメーターには NONE を指定します。

```
ADD ACC CALL=dialin DIR=ANSWER ENCAP=PPP ASYN=1 RSCRIPT=reset.mds
PPPTEMPLATE=0 AUTH=NONE ↵
```

RSCRIPT（リセットスクリプト）には、モデムを初期化し、自動応答をオンにするためのモデムコマンドを記述します。DSCRIPT（ダイヤルスクリプト）は不要なので指定しません。

5. LAN 側の IP 設定をします。

```
ENABLE IP ↵
ADD IP INT=eth0 IP=192.168.10.1 ↵
```

■ モデムスクリプト reset.mds の内容は次のとおりです。

```
[atz^m]
(5 ok)
[ats0=1^m]
```

■ IP プールを使ってアドレスを動的に割り当てるには、手順 2、3 を次のように変更します。この例では、192.168.10.211～192.168.10.220 の範囲から空いているアドレスを動的に割り当てます。

```
ADD USER=dialupuser PASSWORD=dialuppasswd LOGIN=NO ↵
CREATE IP POOL=pppip IP=192.168.10.211-192.168.10.220 ↵
CREATE PPP TEMPLATE=0 IDLE=180 BAP=OFF LQR=OFF LOGIN=USER AUTHEN=EITHER
IPPOOL=pppip ↵
```

■ RADIUS サーバーを使ってユーザーに割り当てる IP アドレスを管理するには、手順 2、3 を次のように変更します。ユーザーアカウントは RADIUS サーバー上で管理するため、ADD USER コマンド（「運用・管理」の 117 ページ）は必要ありません。その代わりに、ADD RADIUS SERVER コマンド（「運用・管理」の 107 ページ）で RADIUS サーバーの IP アドレスと共有パスワードを指定する必要があります。

```
CREATE PPP TEMPLATE=0 BAP=OFF LQR=OFF LOGIN=RADIUS AUTHEN=EITHER ↵
ADD RADIUS SERVER=192.168.10.100 SECRET=ijiruna ↵
```

RADIUS サーバーのクライアント情報ファイルとユーザー情報ファイルの例を示します。設定ファイルの書式はサーバーによって微妙な違いがあるので注意してください。詳細は RADIUS サーバーのマニュアルをご覧ください。

[/etc/raddb/clients]

```
# client          secret
192.168.10.1      ijiruna
```

[/etc/raddb/users]

```
dialupuser  Password = "PasswordA"
             Framed-IP-Address = 192.168.10.201
```

```
Framed-IP-Netmask = 255.255.255.255  
Idle-Timeout = 180
```

デバッグ

■ 非同期コールのデバッグをオンにするには、ENABLE ACC CALL DEBUG コマンド（25 ページ）を使います。

```
ENABLE ACC CALL=slip DEBUG=ALL ↵
```

■ 接続に失敗する場合、非同期ポートの設定を確認してください。CD 信号線の解釈の仕方（SET ASYN コマンド（「インターフェース」の 50 ページ）の CDCONTROL パラメーター）が CONNECT（CD オンで接続、オフで切断と認識する）になっているかどうか確認してください。

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

一般コマンド

PURGE ACC	27
SHOW ACC	32

非同期コール

ACTIVATE ACC CALL	14
ADD ACC CALL	15
DEACTIVATE ACC CALL	19
DELETE ACC CALL	20
DISABLE ACC CALL	22
DISABLE ACC CALL DEBUG	23
ENABLE ACC CALL	24
ENABLE ACC CALL DEBUG	25
SET ACC CALL	29
SHOW ACC CALL	33

モデムスクリプト

ADD ACC SCRIPT	17
DELETE ACC SCRIPT	21
PURGE ACC SCRIPT	28
SET ACC SCRIPT	31
SHOW ACC SCRIPT	36

ACTIVATE ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

ACTIVATE ACC CALL=*call-name* [PHONENUMBER=*phone-number*]

call-name: コール名 (1~15 文字。大文字小文字を区別しない)

phone-number: 電話番号 (1~31 文字)

解説

非同期コール (ACC CALL) を起動し発呼する。

発呼は、非同期コールの DSCRIPT パラメーターで指定したダイヤルスクリプトを実行することによって行われる。

パラメーター

CALL 非同期コール名。発呼可能なものでなくてはならない (DIRECTION パラメーターが ORIGINATE か BOTH)。

PHONENUMBER 接続先電話番号。ダイヤルスクリプト (DSCRIPT) の起動時に引数「%1」として渡される。スクリプトに「[atdt%1^m]」のような文を記述することによって利用する。本パラメーターは、ADD ACC CALL コマンドの DIAL パラメーターよりも優先される。

例

■非同期コール「remote」を起動する

```
ACTIVATE ACC CALL=remote
```

関連コマンド

ADD ACC CALL (15 ページ)

DEACTIVATE ACC CALL (19 ページ)

SET ACC CALL (29 ページ)

SHOW ACC CALL (33 ページ)

ADD ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

```
ADD ACC CALL=call-name ASYN=asyn-number [AUTHENTICATION={AUTO|NONE|
PASSWORD}] [CSCRIPT=filename] [DIAL=phone-number] [DIRECTION={ANSWER|
BOTH|ORIGINATE}] [DSCRIPT=filename] [ENCAPSULATION={ADAPTIVE|AUTO|CSLIP|
ENQUIRE|NONE|OKPPP|PPP|SLIP}] [IPPOOL={pool-name|NONE}] [LINE={DIRECT|
MODEM}] [PPPTEMPLATE=template] [REMOTE=call-name] [RSCRIPT=filename]
```

call-name: コール名 (1～15 文字。大文字小文字を区別しない)

asyn-number: 非同期ポート番号 (0～)

filename: ファイル名 (拡張子は.mds)

phone-number: 電話番号 (1～31 文字)

pool-name: IP プール名 (1～15 文字)

template: PPP テンプレート番号 (0～31)

解説

非同期コールを定義する。あるいは、既存の非同期コールに非同期ポートを追加する。

新規作成時は、CALL、ASYN、DIRECTION パラメーターが必須。

パラメーター

CALL 非同期コール名

ASYN 使用する非同期ポート

AUTHENTICATION 着信時の認証方式。PASSWORD を指定した場合はログイン認証を行う (login: プロンプトを提示し、ユーザー認証データベースまたは認証サーバーによる認証を行う)。AUTO を指定した場合は、PPP のフラグシーケンスの有無を判断し、検出時は PPP テンプレートで指定された認証を行い、非検出時は PASSWORD 指定時同様の認証を行う。NONE の場合は、PPP テンプレートで指定された認証を行う。デフォルトは PASSWORD。

CSCRIPT 発呼時にリモートホストとの接続確立後に実行されるコネクトスクリプト (.mds) を指定する。コネクトスクリプトにはログイン手順等を記述する。

DIAL 接続先の電話番号を指定。この番号は、ダイヤルスクリプト (DSCRIPT で指定) 起動時に引数%1 として渡される。

DIRECTION 呼の方向を指定。ANSWER (着呼のみ)、ORIGINATE (発呼のみ)、BOTH (発着両用) から選択。

DSCRIPT ダイヤルスクリプト。発呼用のモデムスクリプト (.mds) を指定する。このスクリプトにはモデムコマンド等のチャットスクリプトを記述する。

ENCAPSULATION 非同期コール上で使用する伝送プロトコルを指定する。選択肢は、ADAPTIVE (SLIP と CSLIP を自動判別)、AUTO (自動判別)、CSLIP (Compressed SLIP)、ENQUIRE (プロンプトを出してユーザーに選択させる)、NONE (無手順)、OKPPP (PPP フレームを検出したら非同期 PPP に移行する)、PPP (非同期 PPP)、SLIP (Serial Line IP)。デフォルトは ENQUIRE。

IPPOOL SLIP ユーザーに割り当てる IP アドレスプールを指定する。NONE は割り当てを行わないことを示す。デフォルトは NONE。PPP ユーザー用のアドレスプールは、PPP テンプレートの IPPOOL パラメーターで指定する。

LINE 非同期ポートの信号制御方式。MODEM はモデム接続に適した設定。DIRECT はルーター 2 台をスルモデムケーブルで直結する場合の設定。デフォルトは MODEM。

PPPTEMPLATE 着信時に動的作成する PPP インターフェースのテンプレート。ダイナミック PPP を使用するには、ENCAPSULATION パラメーターに AUTO、OKPPP、PPP のいずれかを指定しなくてはならない。

REMOTE リモートコール名

RSCRIPT リセットスクリプト。呼切断時（CD 信号がオフになったとき）に実行するモデムスクリプト（.mds）を指定する。

例

■発着両用の非同期コール **remote** を作成。伝送プロトコルは PPP、非同期ポート 1 を使用する。

```
ADD ACC CALL=remote DIR=BOTH ENCAP=PPP AUTH=NONE ASYN=1 RSCRIPT=reset.mds
DSCRIPT=dial.mds
```

■着信専用の非同期コール **dialin** を作成。着信時に PPP テンプレート「0」に基づき PPP インターフェースを動的作成する。

```
ADD ACC CALL=dialin DIR=ANS ENCAP=PPP AUTH=NONE ASYN=1 RSCRIPT=reset.mds
PPPTEMPLATE=0
```

■SLIP 着信用の非同期コール **slipin** を作成。着信時にログイン認証を行う。

```
ADD ACC CALL=slipin DIR=ANS ENCAP=SLIP AUTH=PASSWORD ASYN=1
RSCRIPT=reset.mds
```

関連コマンド

DELETE ACC CALL (20 ページ)

SET ASYN (「インターフェース」の 50 ページ)

SHOW ACC CALL (33 ページ)

ADD ACC SCRIPT

カテゴリー：非同期コール / モデムスクリプト

```
ADD ACC SCRIPT=filename [LINE=line-num] [TEXT=string]
      [TEMPLATE=filename]
```

filename: ファイル名（拡張子は.mds）

line-num: 行番号（1～）

string: 文字列

解説

モデムスクリプトを作成、あるいは、モデムスクリプトに行を追加する。

パラメーター

SCRIPT モデムスクリプト名。拡張子は.mds とする。

LINE スクリプトの行番号。指定した行に TEXT を挿入する。

TEXT スクリプトの本文（一行）

TEMPLATE テンプレートファイル。新規作成時に指定すると、同じ内容のスクリプトファイルが作成される。

例

■既存のスクリプトファイル foo.mds と同じ内容の bar.mds を作成する。

```
ADD ACC SCRIPT=bar.mds TEMPLATE=foo.mds
```

■発信接続用のモデムスクリプト「dial.mds」を作成する。

```
ADD ACC SCRIPT=dial.mds TEXT="[atz^m]"
```

```
ADD ACC SCRIPT=dial.mds TEXT="(5 ok)"
```

```
ADD ACC SCRIPT=dial.mds TEXT="[ate0q1dt%1^m]"
```

備考・注意事項

本コマンドは、ログインした状態でコマンドラインから実行することを想定している。設定スクリプトファイル（.CFG）記述した場合は意図した結果にならないことがあるので注意。

関連コマンド

DELETE ACC SCRIPT (21 ページ)

PURGE ACC SCRIPT (28 ページ)

SET ACC SCRIPT (31 ページ)

SHOW ACC SCRIPT (36 ページ)

DEACTIVATE ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

DEACTIVATE ACC CALL=*call-name*

call-name: コール名（1～15 文字。大文字小文字を区別しない）

解説

非同期コールを切断する（非同期ポートの DTR 信号をオフにする）。

パラメーター

CALL 非同期コール名

関連コマンド

ACTIVATE ACC CALL（14 ページ）

SHOW ACC CALL（33 ページ）

DELETE ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

DELETE ACC CALL=*call-name* [ASYN=*asyn-number*]

call-name: コール名 (1~15 文字。大文字小文字を区別しない)

asyn-number: 非同期ポート番号 (0~)

解説

非同期コールを削除する。あるいは、非同期コールで使用するポートを削除する。

パラメーター

CALL 非同期コール名

ASYN 非同期ポート番号。本パラメーターを指定した場合は、非同期コールが使用するポートを 1 つ削除する。非同期コールの定義には最低 1 つポートが必要なので、ポートが 1 つしか定義されていない場合は削除できない。

関連コマンド

ADD ACC CALL (15 ページ)

PURGE ACC (27 ページ)

SHOW ACC CALL (33 ページ)

DELETE ACC SCRIPT

カテゴリー：非同期コール / モデムスクリプト

DELETE ACC SCRIPT=filename [LINE=line-num]

filename: ファイル名 (拡張子は.mds)

line-num: 行番号 (1～)

解説

モデムスクリプトを削除、あるいは、モデムスクリプトから指定行を削除する。

パラメーター

SCRIPT モデムスクリプト名。拡張子は.mds。

LINE 削除する行の行番号を指定する。省略時はモデムスクリプトそのものが削除される。

関連コマンド

ADD ACC SCRIPT (17 ページ)

PURGE ACC SCRIPT (28 ページ)

SET ACC SCRIPT (31 ページ)

SHOW ACC SCRIPT (36 ページ)

DISABLE ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

DISABLE ACC CALL=*call-name*

call-name: コール名（1～15 文字。大文字小文字を区別しない）

解説

非同期コールを一時的に無効にする。

パラメーター

CALL 非同期コール名

関連コマンド

ENABLE ACC CALL（24 ページ）

SHOW ACC CALL（33 ページ）

DISABLE ACC CALL DEBUG

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

DISABLE ACC CALL=*call-name* **DEBUG**=**{**UTILISATION|DEMAND|PACKET|PKT|ASYN|
SCRIPTS|DIALIN|**ALL}**

call-name: コール名（1～15 文字。大文字小文字を区別しない）

解説

非同期コールのデバッグオプションを無効にする。

パラメーター

CALL 非同期コール名

DEBUG 無効にするデバッグオプション

関連コマンド

ENABLE ACC CALL DEBUG（25 ページ）

SHOW ACC CALL（33 ページ）

ENABLE ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

ENABLE ACC CALL=*call-name*

call-name: コール名（1～15 文字。大文字小文字を区別しない）

解説

一時的に無効にされていた非同期コールを再度有効にする。

パラメーター

CALL 非同期コール名

関連コマンド

DISABLE ACC CALL（22 ページ）

SHOW ACC CALL（33 ページ）

ENABLE ACC CALL DEBUG

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

ENABLE ACC CALL=*call-name* **DEBUG=**{**UTILISATION**|**DEMAND**|**PACKET**|**PKT**|**ASYN**|**SCRIPTS**|**DIALIN**|**ALL**} [**ASYN=***asyn-number*]

call-name: コール名 (1～15 文字。大文字小文字を区別しない)

asyn-number: 非同期ポート番号 (0～)

解説

非同期コールのデバッグオプションを有効にする。

パラメーター

CALL 非同期コール名

DEBUG 有効にするデバッグオプション

ASYN デバッグ情報を出力する非同期ポート番号。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable acc call=isp debug=all

Manager > ACC activate call isp, asyn1
ACC starting script dial.mds
ACC attached to asyn1 and ready for scripting
ACC script dial.mds, sending to asyn1 .. atz2z
ACC asyn1 tx 61

Manager > ACC asyn1 tx 74
ACC asyn1 tx 7a

Manager > ACC asyn1 tx 32
ACC asyn1 tx 7a

Manager > ACC script dial.mds, waiting for 10(s) for .. ok .. from asyn1
ACC asyn1 tx 0d
ACC asyn1 input : atz2z

Manager > ACC activate call isp, asyn1

Manager > ACC activate call isp, asyn1

Manager > ACC asyn1 input :
ACC asyn1 input : OK
```

```
ACC script dial.mds, sending to asyn1 .. ate0q1dt0,35374000
ACC asyn1 tx 61
ACC activate call isp, asyn1
ACC asyn1 tx 74

Manager > ACC asyn1 tx 65
ACC asyn1 tx 30

Manager > ACC asyn1 tx 71
ACC asyn1 tx 31

Manager > ACC asyn1 tx 64
ACC asyn1 tx 74

Manager > ACC asyn1 tx 30
ACC asyn1 tx 2c

Manager > ACC asyn1 tx 33
ACC asyn1 tx 35

Manager > ACC asyn1 tx 33
ACC asyn1 tx 37

Manager > ACC asyn1 tx 34
ACC asyn1 tx 30

Manager > ACC asyn1 tx 30
ACC asyn1 tx 30

Manager > ACC asyn1 tx 0d
ACC asyn1 input : ate0q1dt0,35374000
```

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

DISABLE ACC CALL DEBUG (23 ページ)

SHOW ACC CALL (33 ページ)

PURGE ACC

カテゴリー：非同期コール / 一般コマンド

PURGE ACC

解説

非同期コールコントロール（ACC）モジュールの設定情報をすべて削除する。

備考・注意事項

ランタイムメモリー上にある ACC 関連の設定がすべて削除されるため、運用中のシステムで本コマンドを実行するときは十分に注意すること。

関連コマンド

DELETE ACC CALL（20 ページ）

PURGE ACC SCRIPT

カテゴリー：非同期コール / モデムスクリプト

PURGE ACC SCRIPT={*filename*|ALL}

filename: ファイル名（拡張子は.mds）

解説

モデムスクリプトを削除する。

パラメーター

SCRIPT モデムスクリプト名。ALL 指定時はすべてのモデムスクリプトを削除する。

備考・注意事項

ファイルシステム上にあるモデムスクリプトがすべて削除されるため、運用中のシステムで本コマンドを実行するときは十分に注意すること。

関連コマンド

ADD ACC SCRIPT（17 ページ）

DELETE ACC SCRIPT（21 ページ）

SET ACC SCRIPT（31 ページ）

SHOW ACC SCRIPT（36 ページ）

SET ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

```
SET ACC CALL=call-name [AUTHENTICATION={AUTO|NONE|PASSWORD}]
    [CSCRIPT=filename] [DIAL=phone-number] [DIRECTION={ANSWER|BOTH|
    ORIGINATE}] [DSCRIPT=filename] [ENCAPSULATION={ADAPTIVE|AUTO|CSLIP|
    ENQUIRE|NONE|OKPPP|PPP|SLIP}] [IPPOOL={pool-name|NONE}] [LINE={DIRECT|
    MODEM}] [PPPTEMPLATE=template] [REMOTE=call-name] [RSCRIPT=filename]
```

call-name: コール名 (1～15 文字。大文字小文字を区別しない)

phone-number: 電話番号 (1～31 文字)

pool-name: IP プール名 (1～15 文字)

template: PPP テンプレート番号 (0～31)

filename: ファイル名 (拡張子は.mds)

解説

非同期コールの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

CALL 非同期コール名

AUTHENTICATION 着信時の認証方式。PASSWORD (デフォルト) を指定した場合はログイン認証を行う (login:プロンプトを提示し、ユーザー認証データベースまたは認証サーバーによる認証を行う)。AUTO を指定した場合は、PPP のフラグシーケンスの有無を判断し、検出時は PPP テンプレートで指定された認証を行い、非検出時は PASSWORD 指定時同様の認証を行う。NONE の場合は、PPP テンプレートで指定された認証を行う。

CSCRIPT 発呼時にリモートホストとの接続確立後に実行されるコネクトスクリプト (.mds) を指定する。スクリプトにはログイン手順等を記載するのが一般的。

DIAL 接続先の電話番号を指定。この番号は、ダイヤルスクリプト (DSCRIPT で指定) 起動時に引数%1として渡される。

DIRECTION 呼の方向を指定。ANSWER (着呼のみ)、ORIGINATE (発呼のみ)、BOTH (発着両用) から選択。

DSCRIPT ダイヤルスクリプト。発呼用のモデムスクリプト (.mds) を指定する。このスクリプトにはモデムコマンド等のチャットスクリプトを記述する。

ENCAPSULATION 非同期コール上で使用する伝送プロトコルを指定する。選択肢は、ADAPTIVE (SLIP と CSLIP を自動判別)、AUTO (自動判別)、CSLIP (Compressed SLIP)、ENQUIRE (プロンプトを出してユーザーに選択させる)、NONE (無手順)、OKPPP (PPP フレームを検出したら非同期 PPP に移行する)、PPP (非同期 PPP)、SLIP (Serial Line IP)。デフォルトは ENQUIRE。

IPPOOL SLIP ユーザーに割り当てる IP アドレスプールを指定する。NONE は割り当てを行わないことを示す。デフォルトは NONE。PPP ユーザー用のアドレスプールは、PPP テンプレートの IPPOOL パラメーターで指定する。

LINE 非同期ポートの信号制御方式。MODEM はモデム接続に適した設定。DIRECT はルーター 2 台を
ヌルモデムケーブルで直結する場合の設定。デフォルトは MODEM。

PPPTEMPLATE 着信時に動的作成する PPP インターフェースのテンプレート。ダイナミック PPP を使
用するには、ENCAPSULATION パラメーターに AUTO、OKPPP、PPP のいずれかを指定しなく
てはならない。

REMOTE リモートコール名

RSCRIPT リセットスクリプト。呼切断時（CD 信号がオフになったとき）に実行するモデムスクリプト
(.mds) を指定する。

関連コマンド

ADD ACC CALL (15 ページ)

SHOW ACC CALL (33 ページ)

SET ACC SCRIPT

カテゴリー：非同期コール / モデムスクリプト

```
SET ACC SCRIPT=filename LINE=line-num [TEXT=string] [AFTER=line-num]
[BEFORE=line-num]
```

filename: ファイル名（拡張子は.mds）

line-num: 行番号（1～）

string: 文字列

解説

モデムスクリプト内の指定した行の内容を変更する。または、指定した行を移動する。

パラメーター

SCRIPT モデムスクリプト名

LINE 変更する行の行番号

TEXT 変更後のテキスト

AFTER 行番号。LINE で指定した行が AFTER で指定した行の後ろに移動する。

BEFORE 行番号。LINE で指定した行が BEFORE で指定した行の前に移動する。

関連コマンド

ADD ACC SCRIPT (17 ページ)

DELETE ACC SCRIPT (21 ページ)

PURGE ACC SCRIPT (28 ページ)

SHOW ACC SCRIPT (36 ページ)

SHOW ACC

カテゴリー：非同期コール / 一般コマンド

SHOW ACC

解説

非同期コールとモデムスクリプトの一覧を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show acc

ACC details

Calls:
  isp

Scripts:
  flash:dial.mds
  flash:login.mds
  flash:reset.mds

Domain name:
  Not currently set.
```

関連コマンド

ADD ACC CALL (15 ページ)
ADD ACC SCRIPT (17 ページ)
DELETE ACC CALL (20 ページ)
DELETE ACC SCRIPT (21 ページ)
PURGE ACC (27 ページ)
PURGE ACC SCRIPT (28 ページ)

SHOW ACC CALL

カテゴリー：非同期コール / 非同期コール

SHOW ACC CALL [=*call-name*]

call-name: コール名 (1～15 文字。大文字小文字を区別しない)

解説

非同期コールの設定内容を表示する。

パラメーター

CALL 非同期コール名。省略時はすべての非同期コールに関する情報が表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > show acc call

ACC call details

Name: isp
  State ..... Enabled
  Direction ..... Originate
  Line ..... Modem
  PPP Template ..... Not set
  IP Pool ..... Not set
  Remote Call ..... Not set
  Encapsulation ..... PPP
  Dial Number ..... 12345678
  Reset Script ..... reset.mds
  Dial Script ..... dial.mds
  Connect Script .... Not set
  Active ..... No
  Debug ..... Enabled

Asyn(s):
  Asyn1:
    Asyn State ..... Idle
    Number activations ..... 20
    Start time last activation ... 02-Oct-2001 09:53:05
    End time last activation ..... 02-Oct-2001 09:57:58
    Last user ..... Unknown
```

Name	非同期コール名
State	非同期コールの有効・無効
Direction	呼の方向。Answer（着信専用）、Both（発着両用）、Originate（発信専用）のいずれか
Line	信号線制御方法。Direct（ヌルモデム接続用）、Modem（モデム接続用）のいずれか
PPP Template	着信時に動的作成する PPP インターフェースのテンプレート番号
IP Pool	SLIP ユーザーに割り当てる IP アドレスプール名
Remote Call	リモートコール名
Encapsulation	使用する伝送プロトコル。Adaptive（SLIP と CSLIP を自動判別）、Auto（自動判別）、CSlip（Compressed SLIP）、Enquire（プロンプトを出してユーザーに選択させる）、None（無手順）、OKPPP（PPP フレームを検出したら非同期 PPP に移行する）、PPP（非同期 PPP）、Slip（SLIP）のいずれか
Authentication	着信時の認証方式。Password（ユーザー名/パスワードによるログイン認証）、Auto（PPP のフラグシーケンスの有無を判断し、検出時は PPP テンプレートで指定された認証を行い、非検出時はログイン認証を行う）、None（PPP テンプレートで指定された認証を行う）、Pap（PAP 認証）、Chap（CHAP 認証）のいずれか
Dial Number	接続先の電話番号。Direction が Originate か Both の場合だけ表示される
Reset Script	リセットスクリプト。CD 信号がオフになったときに実行される
Dial Script	ダイヤルスクリプト。発呼用のモデムスクリプト。Direction が Originate か Both の場合だけ表示される
Connect Script	コネクトスクリプト。リモートホストとの接続完了後に実行される。Direction が Originate か Both の場合だけ表示される
Active	呼の状態。Yes（接続中）、No（切断状態）。Direction が Originate か Both の場合だけ表示される
Accounting	アカウントिंगの有効・無効
Debug	デバッグ機能の有効・無効
Port(s)	使用する非同期ポート
Port State	非同期ポートの状態。Idle（未使用）、Dialing（ダイヤルスクリプト実行中）、Connecting（コネクトスクリプト実行中）、Open（リモートシステムとの通信確立）、Waiting（コネクトスクリプト実行中に文字列受信待ち）、Sending（コネクトスクリプト実行中に文字列送信中）、Connect wait（ダイヤル後着信応答待ち状態）、Deactivate（呼切断中）、DTR drop（呼切断のため DTR 信号をオフ）、Dial sending（ダイヤルスクリプト実行中に文字列送信中）、Dial waiting（ダイヤルスクリプト実行中に文字列受信待ち）、Reset（ポートリセット中）、Reset start（リセット開始）、Reset waiting（リセットスクリプト実行中に文字列受信待ち）、Reset sending（リセットスクリプト実行中に文字列送信中）、Reset wait done（リセットスクリプト送信後の待機中）、Reset done（リセット完了）、Dial backoff（ビジー検出後再ダイヤル待ち）のいずれか
Number of activations	呼起動回数（発呼、着呼回数）

Start time last activation	前回の呼起動日時。一度も起動されていない場合は Unused
End time last activation	前回の呼切断日時。一度も起動されていない場合は Unused。接続中の場合は Still active
Current user	接続中コールのユーザー名
In payload packets	接続中コールの受信データパケット数
In payload bytes	接続中コールの受信データ量（バイト）
Out payload packets	接続中コールの送信データパケット数
Out payload bytes	接続中コールの送信データ量（バイト）
Last user	前回ログインを試みたユーザー名

表 1:

関連コマンド

ADD ACC CALL (15 ページ)

DELETE ACC CALL (20 ページ)

SET ACC CALL (29 ページ)

SHOW ACC SCRIPT

カテゴリー：非同期コール / モデムスクリプト

SHOW ACC SCRIPT [=filename]

filename: ファイル名（拡張子は.mds）

解説

モデムスクリプトの一覧、または、モデムスクリプトの内容を表示する。

パラメーター

SCRIPT モデムスクリプト名。指定時はスクリプトの内容が表示される。省略時はスクリプトの一覧が表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > show acc script

Filename           Device      Size      Created              Locks
-----
dial.mds           flash       38        02-Oct-2001 09:57:46    0
login.mds          flash       82        02-Oct-2001 09:46:58    0
reset.mds          flash       11        02-Oct-2001 09:57:57    0
-----

Manager > show acc script=dial.mds

ACC script : flash:dial.mds

1:[atz2z^m]
2:(10 ok)
3:[ate0q1dt0,%1^m]
```

Name	スクリプトファイル名
Device	スクリプトが格納されているデバイス
Size	ファイルサイズ（バイト）
Created	作成日時

表 2:

関連コマンド

ADD ACC SCRIPT (17 ページ)
DELETE ACC SCRIPT (21 ページ)
PURGE ACC SCRIPT (28 ページ)
SET ACC SCRIPT (31 ページ)